

---

# 落下星

エルル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

落下星

### 【Nコード】

N2774C

### 【作者名】

エルル

### 【あらすじ】

迷路の中には一人の少年。その迷路は一見すると現実的。しかしこの話は非現実空間での、話。

何か壁にぶつかり、後戻りする。

何回もぶつかり、諦めてしまう。

迷路のその先。わざわざここを通る必要はないと。

そのたびに一つ、何かが消える。

泡のように儚く、そしていとも易く、消える。

迷路には少年がいた。

少年は迷路の曲がり角を幾度と無く曲がった。

道を引き返すことも、しばしばだった。

「いい加減嫌になってくる、」

少年は苛立ちを顕わに、頭を掻いた。

この迷路を抜ける必要の意味が分からなくなってくる。

もちろん、目的があつてこの迷路に飛び込んだ。

僕なら抜けられると信じて。

行き止まりが多くても、僕は諦めないと誓つて。

それが今、少年の心から消えようとしていた。

実は、抜けることは難しくても、戻ることとは簡単なのである。

迷路の壁を思いっきり蹴飛ばせば、全ての壁が壊れ、戻れるのだ。

今までの苦勞は何だったのだろうと思つほどに易く、戻れるのだ。

振り出しは現れても、終着点は現れはしない。

ここは、そういう仕組みの迷路。

それでも、きっと次こそ大丈夫だ、と少年は角を曲がる。

行き止まり。

ちっ、と舌打ちする。

小さく希望を持ったあとの壁ほど、人を墮落させるものはない。

少年は思う。

もっと簡単な迷路だったら、僕も抜け出せるのに。

迷路なんて通る必要のないところを行けば、こんなに不愉快じゃないのに。

こんなにきつい思いをしてまで、迷路のその先に辿り着く必要はない。

はあ、と息が吐かれる。

少年の目は、すっかり灰色になってしまった。

「別に僕じゃなくとも、」

きっと誰かは、この迷路の先に行くだろう。

この先に行くのは自分じゃない。

天を仰げば、空は暗くなっており、星と月が少年を見ていた。

希望の星とも呼ばれなどする星が、瞬いていた。

少年は、あーあと思いながら星を見つめ、やがて視線を目前の壁に移す。

次の瞬間、

少年は壁を蹴り倒した。

脱落者の道が一本、そこに現れた。



別の迷路で、また別の少年が、同じ時、空を見ていた。

疲れてはいたが、負けん気の強そうなその目で、空を。

すると一つの星が短く尾を引いて、流れ落ち、

消えた。

今日もまた一つ、消えたなど、少年は呟いて、明日のために寝るのだった。

（後書き）

身近にあったものを題材に。

要は、この迷路は何を具象化したものか、ということが分かって頂ければ幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2774c/>

---

落下星

2010年10月17日07時32分発行